

第1章 秋田県のすがた

第1節 地勢・沿革

1 地 勢

本県は、首都東京のほぼ真北約450kmの日本海沿岸にあって面積11,613.11km²（全国第6位）、9市50町10村に区分されています。

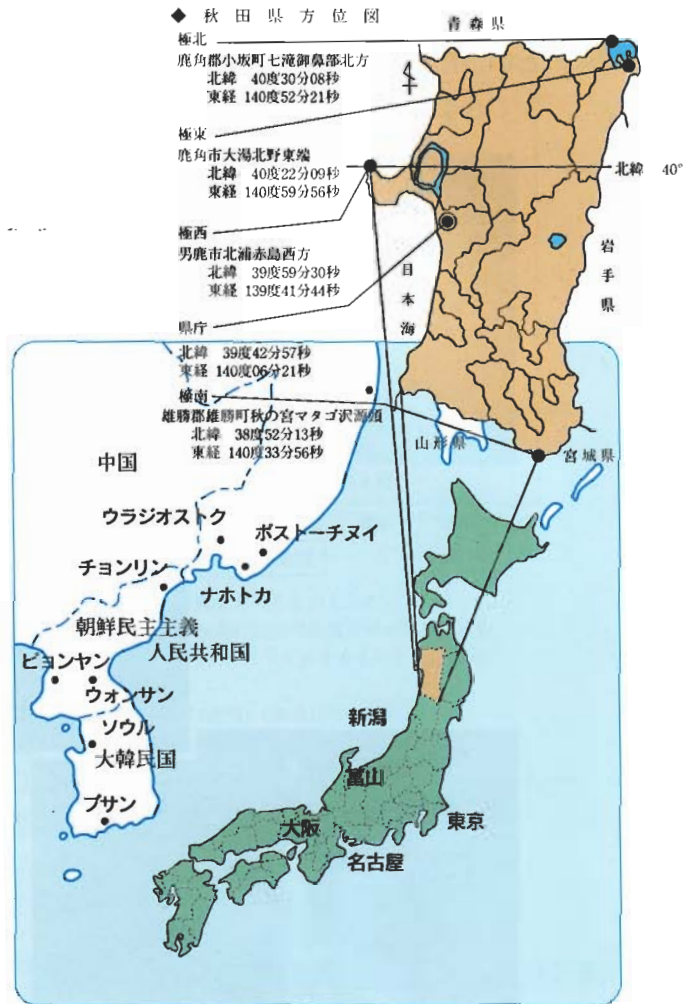
県北には、鷹巣、大館、花輪の諸盆地、県南は横手盆地などをつくり、一方、雄物川、米代川、子吉川などの河川に沿って肥沃な耕地が展開し、その下流には秋田、能代、本荘の各平野が開け多くの都市を発展させています。

2 沿 革

明治4年の廃藩置県によって、秋田県が誕生して以来、多くの人々が郷土の発展に力を尽くし、今日の秋田が築かれてきました。

昭和26年の「秋田県総合開発計画」以来、その時々の経済社会情勢に応じた計画の基本目標やテーマを設定しながら、数次にわたる総合計画を策定してきました。

平成12年度からスタートした「あきた21総合計画」では、「安全・安心に楽しく暮らす秋田」等の五つの基本目標を掲げ、「時と豊かに暮らす秋田」の実現を目指しています。



年月日	羽 後	国	陸 中 国
明治元年	久保田領 秋山河仙平雄 田本辺北鹿勝 郡郡郡郡郡 久保田藩	亀本矢仁 田莊島賀 領領領領 由利郡 亀本矢酒 田莊島田 藩藩藩藩 (民政局)	南部領 鹿角郡 南部藩
明治3年2月24日	岩崎藩（雄勝郡東部）立藩		
明治4年1月13日	久保田藩を秋田藩と改称		
明治4年7月14日 （廃藩置県）	秋田県	岩崎県 亀田県 本荘県 矢島県 酒田県	江刺県
明治4年11月2日	秋田県	岩崎県、亀田県、本荘県、矢島県、酒田県の一部（旧仁賀保領）及び江刺県のうちの鹿角市、鹿角郡を編入し、現在の秋田県を形成した。	

第2節 自然・気象

1 自然

本県は、全国で6番目という広い面積を持ち、春の新緑、夏の空と海の青さ、秋の紅葉、冬の雪景色といった色彩感あふれる四季の変化に富んだ自然を誇り、その息吹きを身近に感じながら生活することができます。



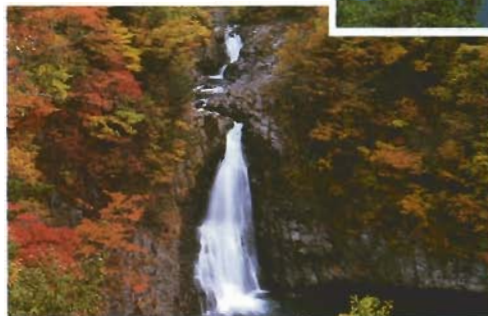
駒ヶ岳とチングルマ



入道崎



十和田湖



法体の滝



樹氷の八幡平

1 気候

当県の気候は、概ね出羽山地により海岸部と内陸部の2つに区分されます。海岸部は全般的に対馬海流の影響を受けてしのぎやすく、冬期間でも積雪は少なめです。

内陸部は夏には比較的高温となり、冬は寒さが厳しく積雪も多くなります。県の面積のほぼ半分を占める24市町村が特別豪雪地帯に指定されています。

全般に長い冬と短い夏が特徴で、四季の変化がはっきりしています。

	秋 田	札 幌	仙 台	東 京
最 低 気 温 (℃)	-7.6	-14.8	-5.5	-0.8
最 高 気 温 (℃)	33.0	29.1	34.0	34.3
年 平 均 気 温 (℃)	11.8	8.8	12.1	16.0
年 降 水 量 (mm)	1,573.0	916.0	1,279.0	1,854.0
快 晴 日 数 (日)	13	23	17	34
降 水 日 数 (日)	163	121	105	113
雪 日 数 (日)	87	115	63	10

資料：「平成15年気象資料」（秋田地方気象台）

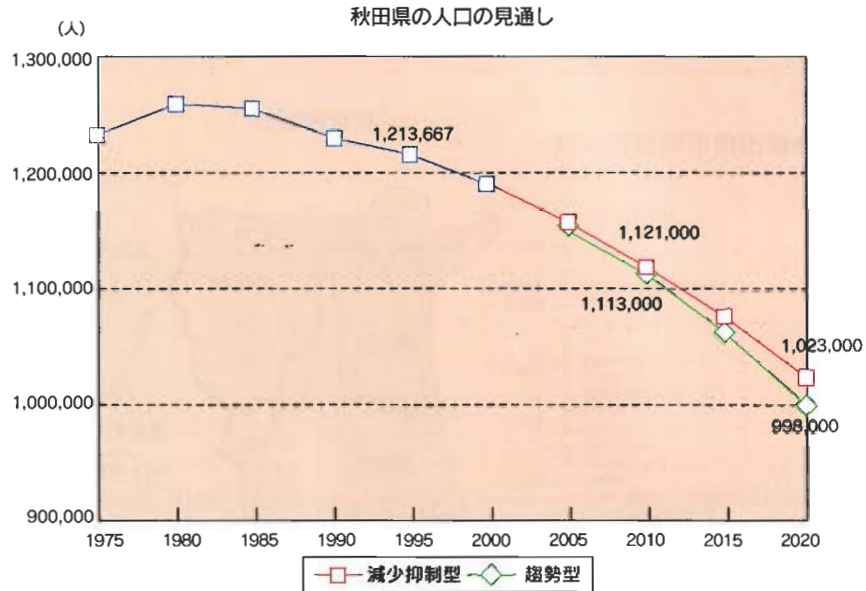
第3節 人口・産業構造

1 人口

本県の人口は昭和57年(1982年)から減少に転じ、平成16年4月(2004年)には約116万861人となっています。「あきた21総合計画」では、減少抑制型で、平成32年(2020年)には約102万人になると推計しています。

人口動態についてみると、自然動態は平成5年(1993年)に減少に転じ、平成15年では前年に比べ、約4,200人の減となっています。一方、社会動態は、一貫して減少傾向であり、平成15年は前年に比べ約4,300人の減となっています。

また年齢別では、年少人口(0~14歳)、生産年齢人口(15~64歳)の割合が年々低下している一方、老年人口(65歳以上)の割合は、上昇しており、平成15年は約26%となっています。



注1) 趨勢型は、直近5カ年(1990~1995)の人口動態が続くものとした。

注2) 減少抑制型は、2020~2025までに15歳から24歳の社会移動減少率が半減、また、合計特殊出生率が1.57(1993~1997年の平均)から1.85まで上昇するものと見込んだ。

資料: 「あきた21総合計画」

「平成15年秋田県年齢別人口流動調査結果(速報)(平成15年12月15日)」

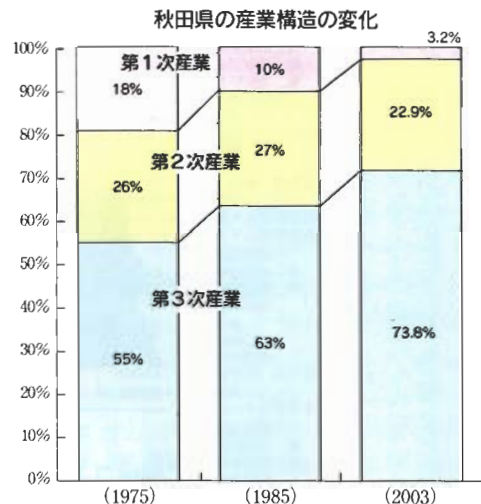
2 経済・産業構造

平成14年度の県内総生産(名目値)は3兆7,412億円で、前年度に比べ689億円(1.8%)減少しました。また、県民所得(名目値)は2兆8,148億円で、前年度に比べ292億円(1.0%)減少しました。

産業構造の推移を県内総生産で見ると、昭和50年(1975年)に18%あった第一次産業のシェアが平成14年(2003年)には3.2%と大幅に縮小しています。

県内総生産及び県民所得

区分		14年度
秋田県	県内総生産	37,412
	県民所得	28,148
	1人当たり県民所得	2,394(千円)
全国	国内総生産	4,976,466
	国民所得	3,628,631
	1人当たり国民所得	2,847(千円)



資料: 「秋田県県民経済計算」(平成16年1月26日、秋田県)

※構成比は帰属利子等を控除する前の値で算出している。それぞれ各目値。

四捨五入の関係で合計値は必ずしも100%とならない。

3 面積

本県の総面積は約11,613km²、全国第6位で、東京都、埼玉県、千葉県を合計を上回ります。

また、各市町村の面積規模も比較的大きく、県内の上位4市町（鹿角市、田沢湖町、秋田市、大館市）の合計だけで東京都を上回り、沖縄県にはほぼ等しい面積になります。

◆秋田県市町村区域図

